# 鳥羽離宮跡発掘調査概報

昭和63年度

京　都　市　文　化　観　光　局

# 序

西暦 794 年、平安京遷都以来、政治・学問・芸術・文化・宗教の中心都市として栄えた京都は、数多くの文化遺産を保ちながら、現在も大都市として躍進を続ける世界的にも希な文化都市であります。

本市では昨年、2巡目初回の国民体育大会を開催し、本年は市制 100 周年、5年後には平安建都1200年をむかえ、現在の京都は大きな節目にたっていると言えます。

近年、都市の活性化により、各種事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査が年々増加していますが、これらの発掘調査の成果を後世に伝えるよう努めております。

本書は、昭和63年度に京都市が国庫補助を得て、財団法人京都市埋蔵文化財研究所に委託して実施した埋蔵文化財調査の報告書であります。調査・報告にあたっては市民のみなさま、文化庁をはじめ数多くの方々に御協力を賜りました。

御協力をいただいた方々に心から御礼を申し上げますとともに、本報告書が京都の歴史を解明する資料として大いに御活用いただければ幸です。

平成元年 3 月

京都市文化観光局

# 例　言

1　本書は、京都市文化観光局が財団法人京都市埋蔵文化財研究所へ委託した文化庁国庫補助に伴う昭和63年度の鳥羽離宮跡発掘調査概要報告である。

2　発掘調査は２箇所で実施した。調査次数は第128次、第129次である。調査地は以下のとおりである。

Ⅰ　第128次調査　伏見区中島秋の山町26

Ⅱ　第129次調査　伏見区竹田浄菩提院町128―9

3　本書の執筆はⅠ、Ⅱ章を磯部　勝・鈴木久男、Ⅲ章を岡田文男が分担した。

4　写真撮影は牛嶋　茂、村井伸也が担当した。

5　図中に使用した座標値は新平面直角座標系第６による。標高はT.P.（東京湾平均海面高度）を使用した。

6　本書で使用した土壌の色名は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帖」に準じた。

7　本書で使用した地図は、京都市都市計画局発行の地図（2500分の１）城南宮を、京都市の承認を得て用いた。

8　今回の調査・整理には桜井みどり・中村光江が参加した。

9　石材については、山城郷土資料館の橋本清一氏にお世話になった。記して感謝の意を表します。

# 本　文　目　次


## Ⅰ　第128次調査

1　調査経過……1
2　遺　　構……2
3　遺　　物……4
4　ま と め……5

## Ⅱ　第129次調査

1　調査経過……7
2　遺　　構……7
3　遺　　物……8
4　ま と め……9

## Ⅲ　植物遺体の調査……11


# 図　版　目　次


図版1　遺跡　北殿地区調査位置図
2　遺跡　東殿地区調査位置図
3　遺物　第128次調査　軒丸瓦拓影・実測図
4　遺物　第128次調査　軒平瓦拓影・実測図
5　遺跡　第129次調査　遺構実測図
6　遺跡　第128次調査　1　第1調査区全景（北から）　2　第2調査区全景（西から）
7　遺跡　第128次調査　1　第2調査区，島断ち割り断面（西南から）　2　第95次調査，島の地業状況（西南から）
8　遺跡　第128次調査　1　第95次調査区，島南側の全景（東から）　2　第95次調査，島の地業状況（西南から）

図版 9　遺物　第128次調査　軒丸瓦
10　遺物　第128次調査　軒平瓦
11　遺跡　第129次調査　調査区全景（東から）
12　遺跡　第129次調査　1　溝 6 石列（東から）　2　溝 6 据え付け状況（東から）
3　溝 6 据え付け状況（東から）
13　第129次調査植物遺体

# 挿　図　目　次

図 1　調査位置図……1
2　北壁断面図……2
3　第 1 調査区実測図……3
4　第 2 調査区実測図……3
5　内裏出土同笵瓦……4
6　島の地業実測図……6
7　調査位置図……7
8　溝 3 出土土器実測図……8
9　軒瓦拓影・実測図……8
10　西壁断面図……9
11　石列断面図……9
12　第44次調査石列（東から）……10

# 表　目　次

表 1　第112・119次調査で検出した植物遺体の比較……11
2　第129次調査植物遺体分析 ……12

# Ⅰ　第128次調査

## 1　調査経過

調査地は、近年再開発のめざましい名神高速道路京都南インターチェンジ西方、今はもうわずかになった水田地帯の中に位置する。この付近は北殿跡と推定しているところで、第１次調査以来、数次にわたる発掘調査によってその一部を明らかにした。第83次調査では園池北岸の一角と景石を、第95次調査では園池の汀に河原石を巡らした洲浜や景石を発見した。また、第115次調査や第118次調査でも、島状遺構や基壇、洲浜などを明らかにしている。

今回の調査地は、先述した第95次調査地の北隣である。調査は、まず対象地内における遺構の有無やその状態を明らかにする目的で試掘調査を行った。調査区は敷地の南端と北端とに設定した。調査の結果、南側の試掘坑では第95次調査で明らかにした園地の一部を、北側では汀近くの土層を確認した。このため、京都市埋蔵文化財調査センターと原因者と

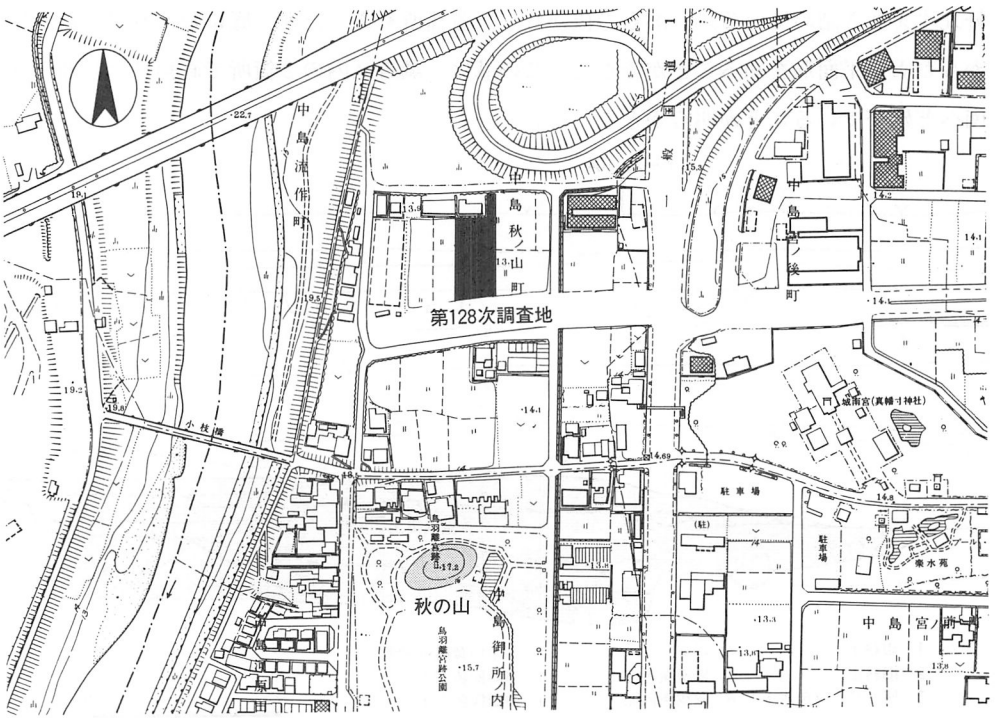



図１　調査位置図

が協議した結果、引き続いて調査を実施することになった。遺構面までの堆積土が厚く、土量が多量になるため重機を導入してこれを除去した。調査区は試掘調査の結果から、敷地の北と南とに設定した。

## 2　遺構

調査区の基本層序は、現耕土下に区画整理する以前の耕土(旧耕土)が認められる。次に、灰オリーブ色泥土～暗灰黄色泥土層が20～40cmの厚さで堆積していた。更に、にぶい黄褐色砂泥～泥土層が第1調査区では薄く（15cm)、第2調査区では厚く(30cm)認められる。これより下層については、第1と第2調査区とでは違った堆積状況を呈する。第1調査区では遺構面直上には、灰オリーブ泥土層が北に薄く南に厚く認められた。遺構面は海抜13.3mである。第2調査区では続いて暗緑灰色土層が厚さ50cmほど堆積していた。遺構は海抜12～12.4mで検出した。

溝1　調査地北側の第1調査区で検出した。溝は両側に20～50cmの河原石を内法の面を直線になるように並べたもので幅50cm、深さ20cmを測る。底には、半截した平瓦や丸瓦、軒瓦片を敷き詰めている。一部石の抜かれている箇所もあったが、底に敷かれていた瓦片からおよそ平面形を知ることができた。この溝は、調査区内の2箇所で直角に折れ曲がり南へと延びていることが明らかとなった。

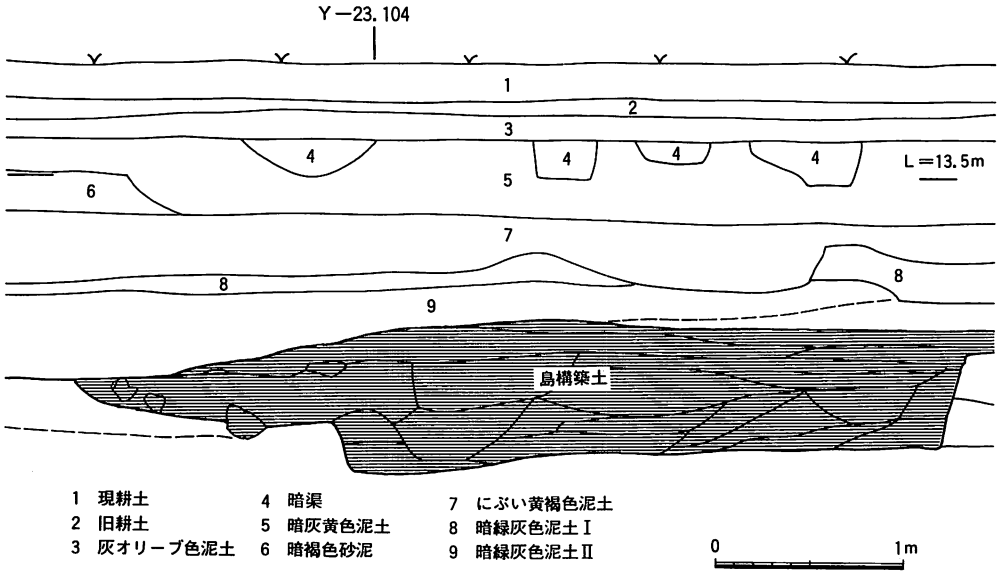



図2　北壁断面図

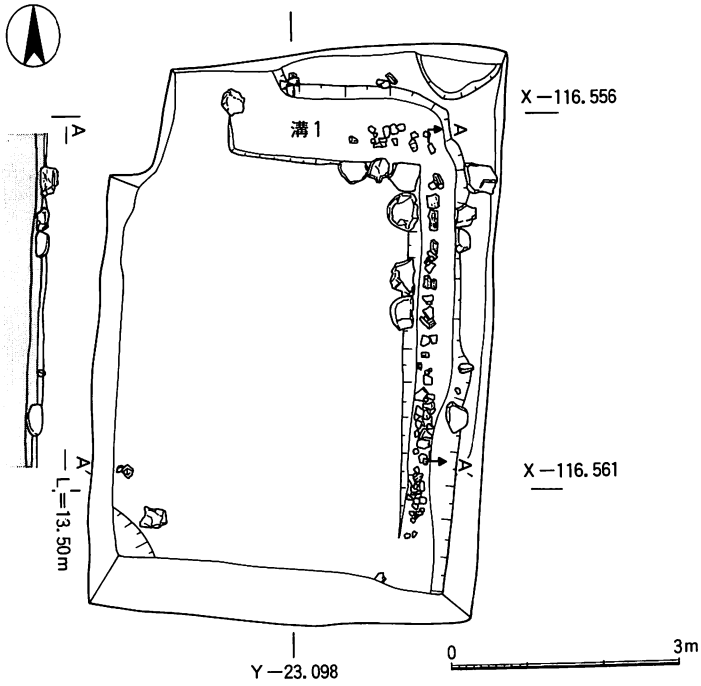



図3　第1調査区実測図

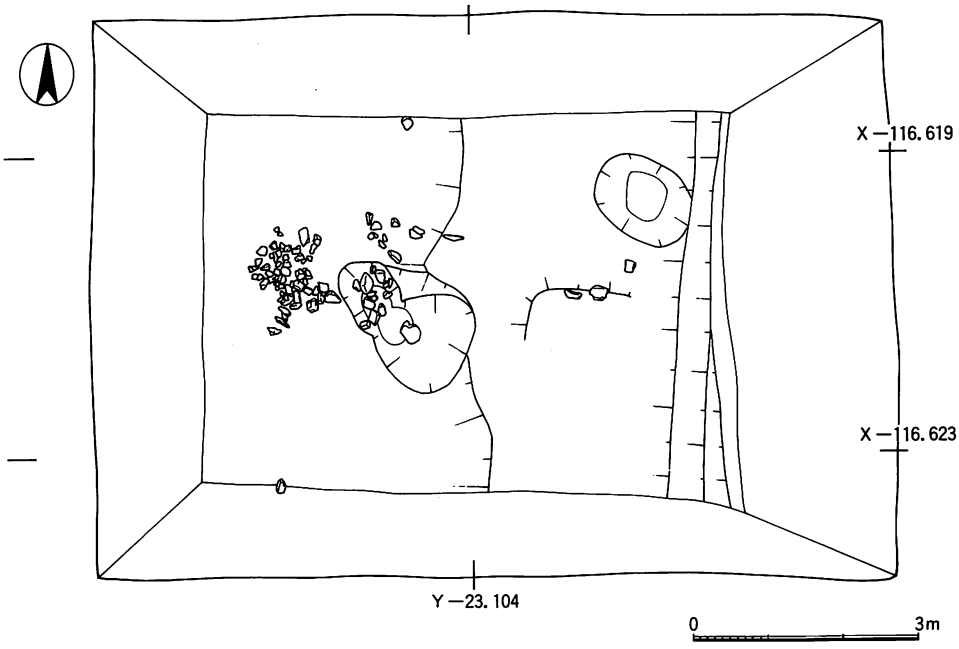



図4　第2調査区実測図

島　南側は第95次調査で明らかにしている。規模は南北約20m、東西15m、高さは池底から1mである。今回の調査では、島の北側西半部を検出した。陸部や汀には景石や洲浜などは見受けられなかった。陸部から池底へは緩やかな傾斜面で、西側の一部には、玉石を集めた箇所があった。景石の根固めか洲浜の玉石かについて明らかにすることができなかった。一部、島の構築土を掘り下げた結果、第95次調査で発見したものと同様な島の地業の溝を検出した。溝は幅3m、深さ50cmを測る。溝の埋土は粗い版築状の地固めを行っている。

## 3　遺物

今回の調査で出土した遺物には土師器、須恵器、黒色土器、緑釉陶器、瓦、木片等がある。鳥羽離宮に関係する遺物としては、土師器の一部と瓦である。他の遺物は、古墳時代、平安時代前期・中期のものである。土器は、いずれも小片で図示できるものは少ない。瓦は、溝1や島の西側や構築土から出土した。最も多く出土したのは溝1からである。以下、主なものについて述べる。

軒丸瓦1～3は、単弁8弁の蓮華文で、弁は輪郭線だけで表す。1は平安宮内裏出土のものと同笵である。2・3は中房に1＋4の蓮子を配する。丸瓦部は粘土紐を巻き上げて成形する。いずれも讃岐産である。4・5は同笵で、直径10cmと小型である。離れ砂を使用している。7・8は、瓦当裏面に指を揃えて丁寧に押さえた痕跡が残る。9・16は剣頭文を配した軒平瓦である。9～12は同笵である。今年度報告の平安宮内裏出土のものと同笵である。16は左脇にヘラ記号をもつ。18は右から左へ反転する軒平瓦で尾張産である。従来、この瓦は鳥羽離宮跡では東殿以外からは全く出土しておらず、本例が初めてである。但し、この瓦が北殿で葺かれていたものかどうかについては今後の検討課題である。軒平20は簡略化された半截花文を飾る。平瓦部凸面には、やや粗い縄叩きを残している。顎は横方向にケズリを加えている。成形手法などから讃岐産と思われる。

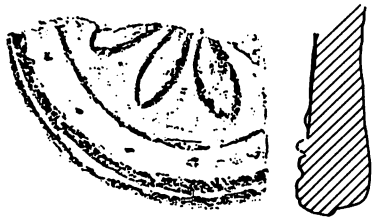


図5　内裏出土同笵瓦（1：3）

## 4　まとめ

今回の調査では、北殿に造営された園池北岸の位置やそこに造られた島の状況を明らか

にすることができた。以下、過去の調査成果を参照しながら検出した遺構を整理してまとめてみたい。

まず、第95次調査で発見した庭園遺構の一部が、今回の調査によって島であることが明らかとなった。そして、島の約3／4を調査したことになった。島の規模は東西16m、南北20m、高さ1mである。景石は島南半部の陸部に5個据え付けていたが、当調査では発見できなかった。このようなことから、景石は島の中央部の高い部分を中心にしてその周辺部へ据え付けていたものと考えられる。

次に、島の構築方法については、第95次調査では図版七に示したように、島の構築土を20～30cm掘り下げた段階で、幅3m、深さ70cmを測る溝や南北方向の浅い方形に曲がる溝状遺構を検出した。そして、この溝の埋土は、版築によって固めていることが明らかとなった。今回の調査でも先述したように南北に延びる幅3m、深さ50cmを測る溝状の遺構を9mにわたって検出した。そして、この溝も第95次調査で見たものと同様に版築の地固めをしていた。最初にこの庭園遺構を発見した第95次調査では、遺構が島なのか半島状のものなのかいま一つ明らかにできなかった。このため、どの様な遺構に伴う造作なのかについては推定の域をでなかった。しかし、今回この工法が島の構築に関わるものであることが伴明した。

なお、島の構築法の順序については、遺構の保存を図るため部分的な調査ではあるが、図6に示すような溝を検出しており、これをもとに復元すると第1に池底面よりも若干掘りくぼめる。→ある程度まで山状に土を盛り上げておよその形を造る。→中央部をきめ、その周りに溝を方形に巡らす。→溝の埋土をつき固めて盛り上げる。→更にその上へ土を固めながら盛り上げ、島の形を成形する。→景石の据え付けや洲浜を作る。

このような構築方法は建物の建築にともなう土木技術とほとんど同じである。すなわち、柱筋だけを溝状に掘り、それのみを版築する布掘り地業と考えられるものに近い。同時代に書かれたと考えられている『作庭記』に見受けられる島の作り方とは全く違ったものである。

北殿の園池の汀については、第81次調査で北岸の一部を、第118次調査では西岸の一部を明らかにした。今回のこの西・北岸の間でそれをつなぐ成果を得た。また、建物遺構に直接結び付かないが、石を用いて作った溝を確認したことは、北岸のかなり近くに建物が存在する可能性が高くなった。

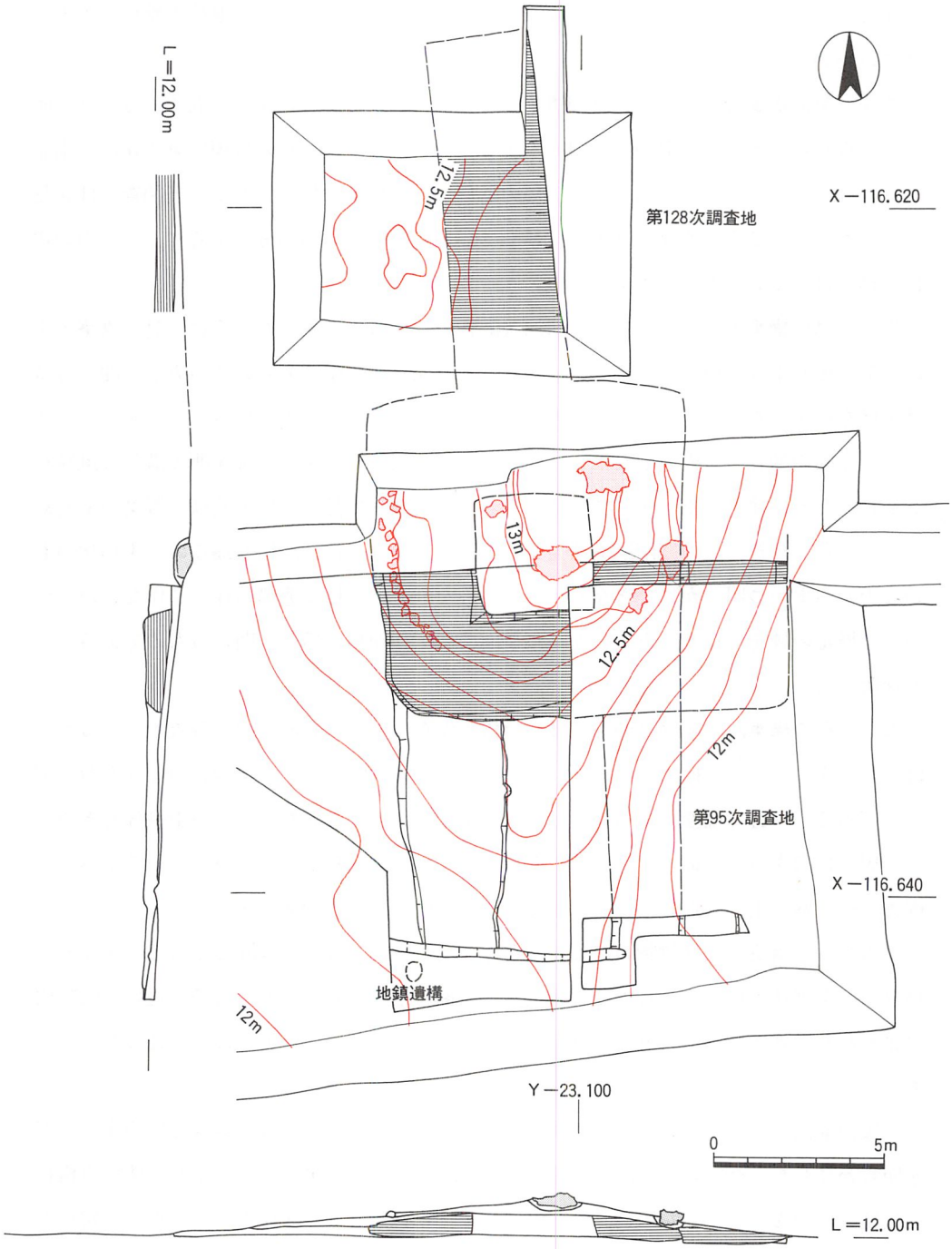

L＝12.00m
12.5m
第128次調査地
X－116.620
13m
12.5m
12m
第95次調査地
X－116.640
地鎮遺構
12m
Y－23.100
0
5m
L＝12.00m

図６　島の地業実測図

# Ⅱ　第129次調査

## 1　調査経過

調査地は近衛天皇陵（安楽寿院南陵）の南に位置する。昭和53年度に当地の西側で実施した第44次調査では園池東岸の一部、景石、石列などを検出している。また、その反対の東側では北から南西に流れる流路や井戸などの遺構を明らかにしている。今回の調査は、当地に民家の建設が計画されたために実施したものである。調査はまず数年前に行われたと思われる盛り土を重機によって除去し、残土はすべて場外に搬出した。

調査区は、第44次の調査成果を参考にしながら調査地の北側に設定し、調査の進展に伴って一部調査地の東側を拡張した。

## 2　遺構

検出した遺構は溝が６条である。新しい区画整理後の耕土・床土を除去した段階で溝１～３・５が検出できた。

溝１　東西方向の溝で幅2.2m、深さ0.4mを測る。護岸した痕跡はなく素掘りのままである。堆積土内からは、土師器、瓦器、瓦、木片などが出土した。

溝２　溝４の北肩口を掘り下げてつくった東西方向の溝で、素掘りである。

溝３　東西方向の溝であるが、南側の肩口が調査区外にあたるため、規模は不明である。

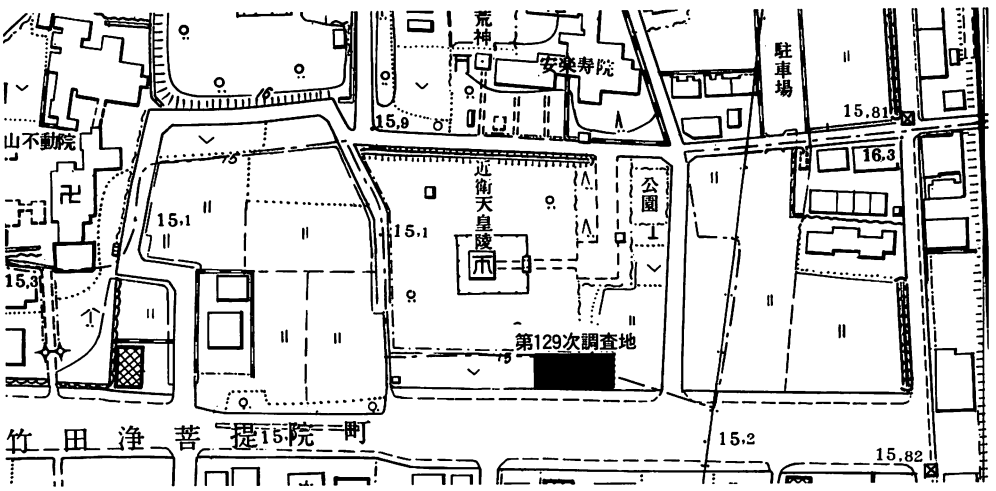



図７　調査位置図（1：2500）

深さ0.3m。堆積土内からは、土師器、瓦器、瓦が出土した。

溝5　北から南東へ曲がる素掘りの溝で、幅2.5m、深さ0.5mを測る。堆積土内からは若干の土師器片と木片が出土しただけである。

溝4　溝1と溝2とによって削平されている。遺物は少量で細片が多い。

溝6　南側の肩口は自然石を一列に並べて護岸としている。今回の調査では石列を東西15mにわたって検出した。使用している石は、ほとんどが角の丸くなったもので、角張ったものは少ない。岩石の種類は、砂岩、玲岩、珪岩、黒雲母花崗岩、頁岩～粘板岩、チャート、泥質砂岩などがある。据え付けられていた石は、そのほとんどが長軸を溝と平行するようにしていた。但し、No.1は、長軸を上下にして据え付けていた。石はただ単に溝の肩に置いただけのものではなく図11に示したように一度溝を掘り、その中に20～30cm大の小型の石を根石として入れ、その上に据え付けている。

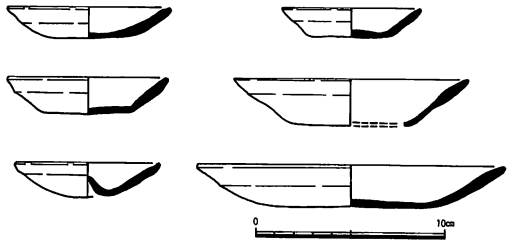



図8　溝3出土土器実測図

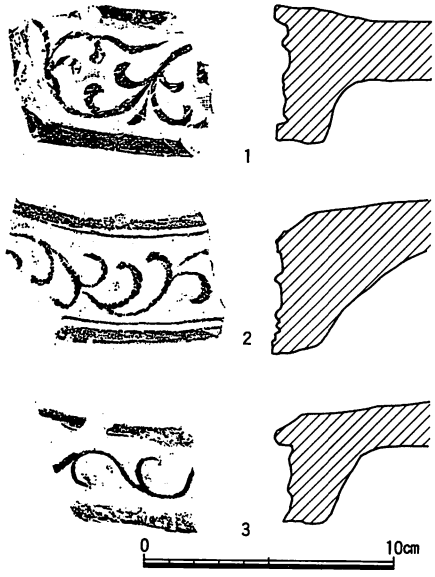



図9　軒瓦拓影・実測図

## 3　遺物

各遺構から出土した遺物は土器、瓦、木製品で全体的に量も少なく小片のものが多い。なかでも平安時代後期から鎌倉時代にかけての遺物は少量である。比較的良好な状態で出土したのは、溝3から出土した土器群である。瓦類は、溝3、4、6などから丸瓦、平瓦などの他に軒瓦が3点出土した。丸瓦や平瓦は、播磨、尾張、山城国などで生産されたものである。

## 4　まとめ

今回の調査によって、第44次調査で検出した同じ石列の東部を明らかにすることができた。第112次調査で発見した周堤の内法から、当調査で確認した石列の東端までの距離は約69mを測

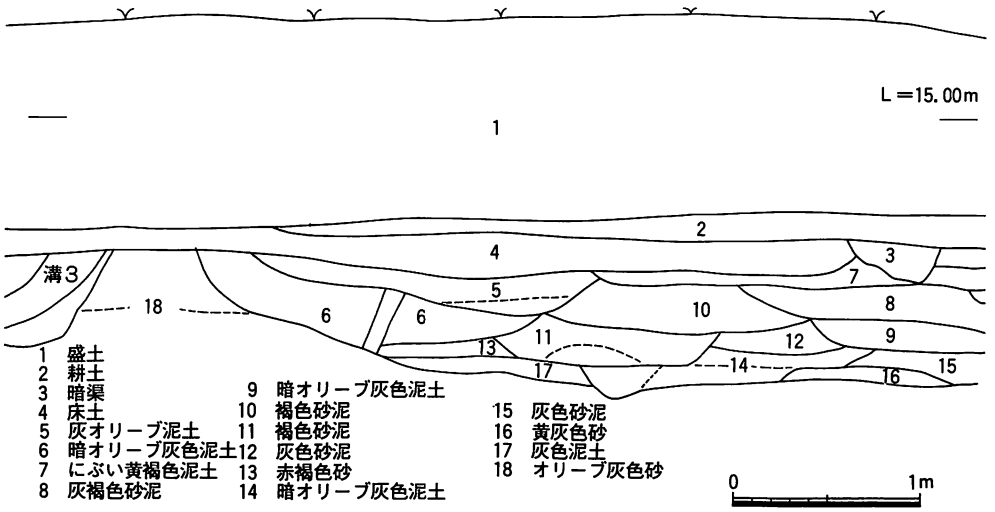



図10　西壁断面図

る。この寸法は、白河天皇陵を取り囲む堀の外法間の距離とほぼ同じである。

石列については、基本的に石の長軸を横にして据え付けているが、列から離れた溝の中に据え付けられた石は、いわゆる立石である。第44次調査で石が重なりあい、倒れた状態はこれを示している。なお、堀の規模は『左経記』[注1]の類聚雑例に見受けられる後一条天皇の山作所の内垣24丈の値に近い[注2]。このようなことから、この時代の御陵はほぼこれに近い規格性が想定できる。また、鳥羽離宮に造営された三陵は文献資料の研究によると、仏教色が濃いものであると言われている。今回に至るまでの東殿関係の発掘調査によって、そのことを考古学的に明らかにした。

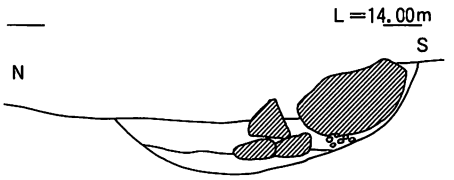



図11　石列断面図

まず、鳥羽天皇陵も、近衛天皇陵も、東殿に造営された園池に面した塔であった。そして、鳥羽天皇陵は園池北岸に、近衛天皇陵は東岸に位置していた。この園池は、勾配の緩やかな汀に玉石を敷いた洲浜を造り、要所に景石を据え付けたものである。更に、この園池に面して九躰阿弥陀堂も造られていたものと考えられる。いわゆる浄土式庭園と呼ばれる型式の庭園である。

現在の近衛天皇陵は、本来鳥羽天皇の中宮であった美福門院の為に、鳥羽天皇が造営したものであった。この世に浄土を模した園池を挟んで２塔を建立し、それを御陵としたこ

とは、当時の世相を反映しているばかりか、美福門院に対する天皇の姿を伺い知ることができる。

注１　『左経記』類聚雑例　増補「史料大成」1975年

「長元九年五月十九日……山作所行事式部大輔資業朝臣、美作守定経朝臣、出納紀為頼、四面立切懸為荒垣、方各三十六丈、高六尺、以、手作幔引其上、南面立鳥居、高二丈三尺、廣一丈二尺、懸帛絹幌、荒垣内叉立切懸為内垣、方各廿四丈、高同前、以生絹幔引亘上、南面叉立鳥居、……」

注２　小松　馨「後一条天皇の喪葬儀礼」『月刊歴史手帖』第17巻２号　1989年

図12　第44次調査石列（東から）

# Ⅲ　植物遺体の調査

調査地の４地点からそれぞれ４リットルの土壌を採取し、１mmメッシュのフルイによる水洗選別をおこない植物遺体を採取した。４地点のうち種実や葉などの植物遺体の検出量が一番多かったのはＤ地点で、他の３地点は植物遺体の検出量がわずかであった。以下では検出量の多かったＤ地点を中心に報告する。

**木本**　木本は14科14種（科、属レベルの同定も１種と数える）を検出した。うち、針葉樹はマツとヒノキの２種類で、常緑広葉樹はアカガシ亜属とツバキの２種類である。落葉広葉樹は９種あり、そのなかにはサクラ亜属やセンダン、エゴノキなどの花の美しい木が含まれる。わずかながら、マダケ属の稈片もある。学名は北村、村田(1979)による。

**草本**　草本は18科23種（科、属レベルの同定も１種と数える）を検出した。このなかにはわずかながら栽培植物であるソバ、ナス、ウリ、イネが見られるほか、アカザ属ないしヒユ属、カタバミ、エノキグサなど庭や畑などに生育する草本と、タガラシ、イボクサ、コナギなどの水辺や湿地に生育する草本とがみられる。植物遺体からみると調査地周辺は水辺の周辺と推定される。学名は北村、村田、小山(1964)による。

**調査地付近の環境の特徴**　鳥羽離宮跡の発掘調査では苑池遺構の検出例が多く、その都度池跡に堆積した土壌から植物遺体の検出を行っている。近衛天皇陵周辺でも第112次調査で天皇陵の堀の外堤工事に用いられた杭の樹種調査を行い、その結果から周辺に針葉樹や常緑広葉樹があったことを推定した。

表１　第112次、第129次調査で検出した植物遺体の比較

| 針葉樹 | １１２次（樹種） | １２９次（種実） | 広葉樹 | １１２次（樹種） | １２９次（種実） |
|---|---|---|---|---|---|
| モミ | ○ | － | ヤナギ属 | ○ | － |
| ツガ | ○ | － | ノグルミ | ○ | － |
| 二葉マツ | ○ | ○ | ハンノキ | ○ | ○ |
| スギ | ○ | － | シイノキ | ○ | － |
| コウヤマキ | ○ | － | アカガシ亜属 | ○ | ○ |
| ヒノキ | ○ | ○ | クヌギ | ○ | － |
| | | | ムクノキ | ○ | － |
| | | | エノキ | － | ○ |
| | | | サクラ属 | ○ | ○ |
| | | | イヌザンショウ | － | ○ |
| | | | アカメガシワ | － | ○ |
| | | | ミズキ属 | ○ | － |
| | | | ブドウ属 | － | ○ |
| | | | ツバキ | － | ○ |
| | | | サカキ | ○ | ○ |
| | | | エゴノキ | － | ○ |
| | | | タラノキ | － | ○ |

（注１）今回の調査地点は112次調査地の東90mの地点であり、植物遺体の調査対象は前回と異なるものの、その結果には針葉樹で２種類、広葉樹では４種類に共通種がみられ、前回の調査の推定を補足するものとなった。杭の樹種と種実の調査結果を比較すると表２の通りである。（○は検出を示す）

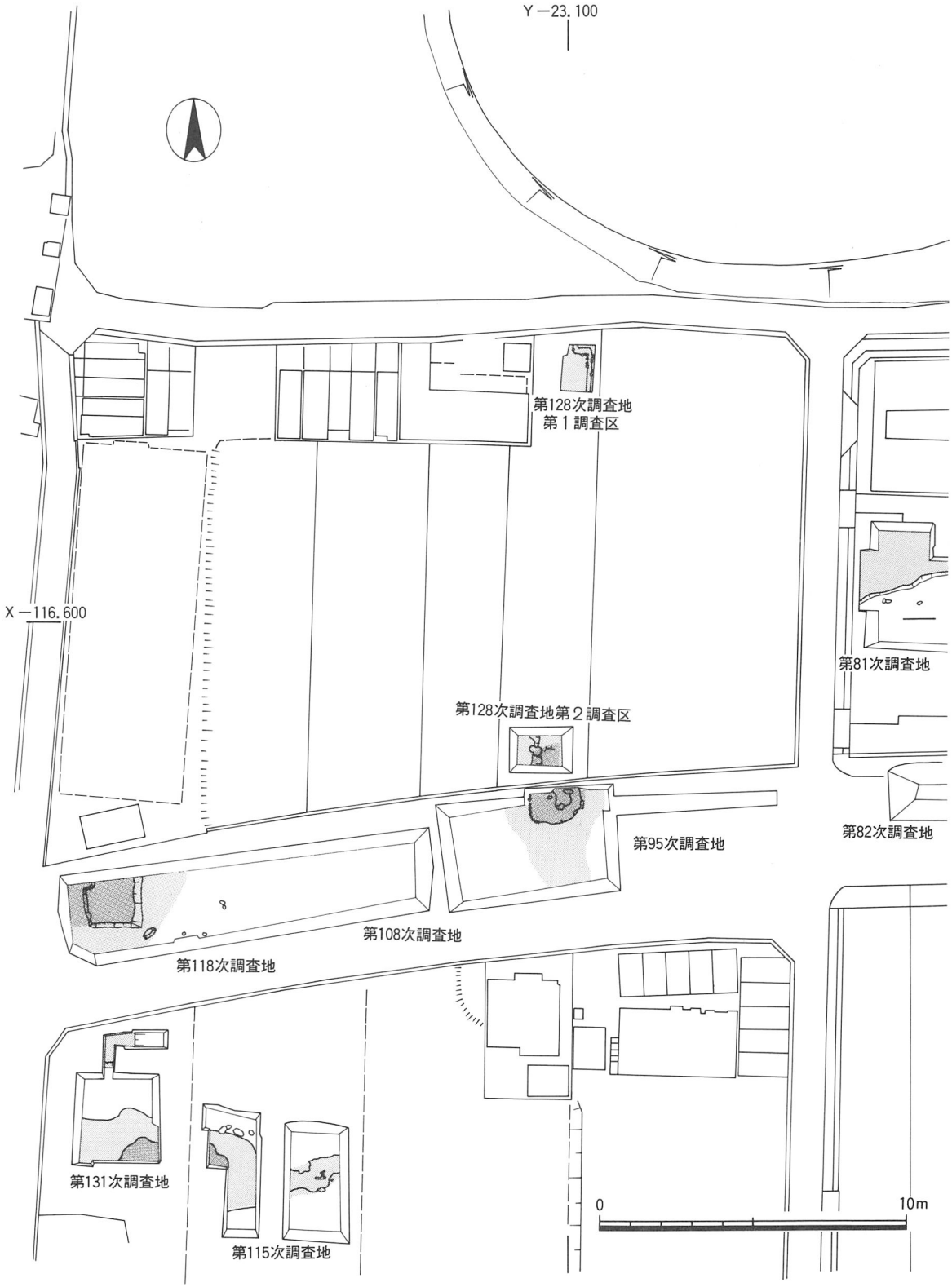
参考文献
北村四郎・村田源（1971）『原色日本植物図鑑木本編Ⅰ』保育社
北村四郎・村田源（1979）『原色日本植物図鑑木本編Ⅱ』保育社
北村四郎・村田源・堀　勝（1957）『原色日本植物図鑑草本編上』保育社
北村四郎・村田源（1961）『原色日本植物図鑑草本編中』保育社
北村四郎・村田源・小山鐵夫（1964）『原色日本植物図鑑草本編下』保育社
（財）京都市埋蔵文化財研究所（1985）『鳥羽離宮跡発掘調査概報　昭和60年度』

表２　鳥羽離宮第129次調査植物遺体分析

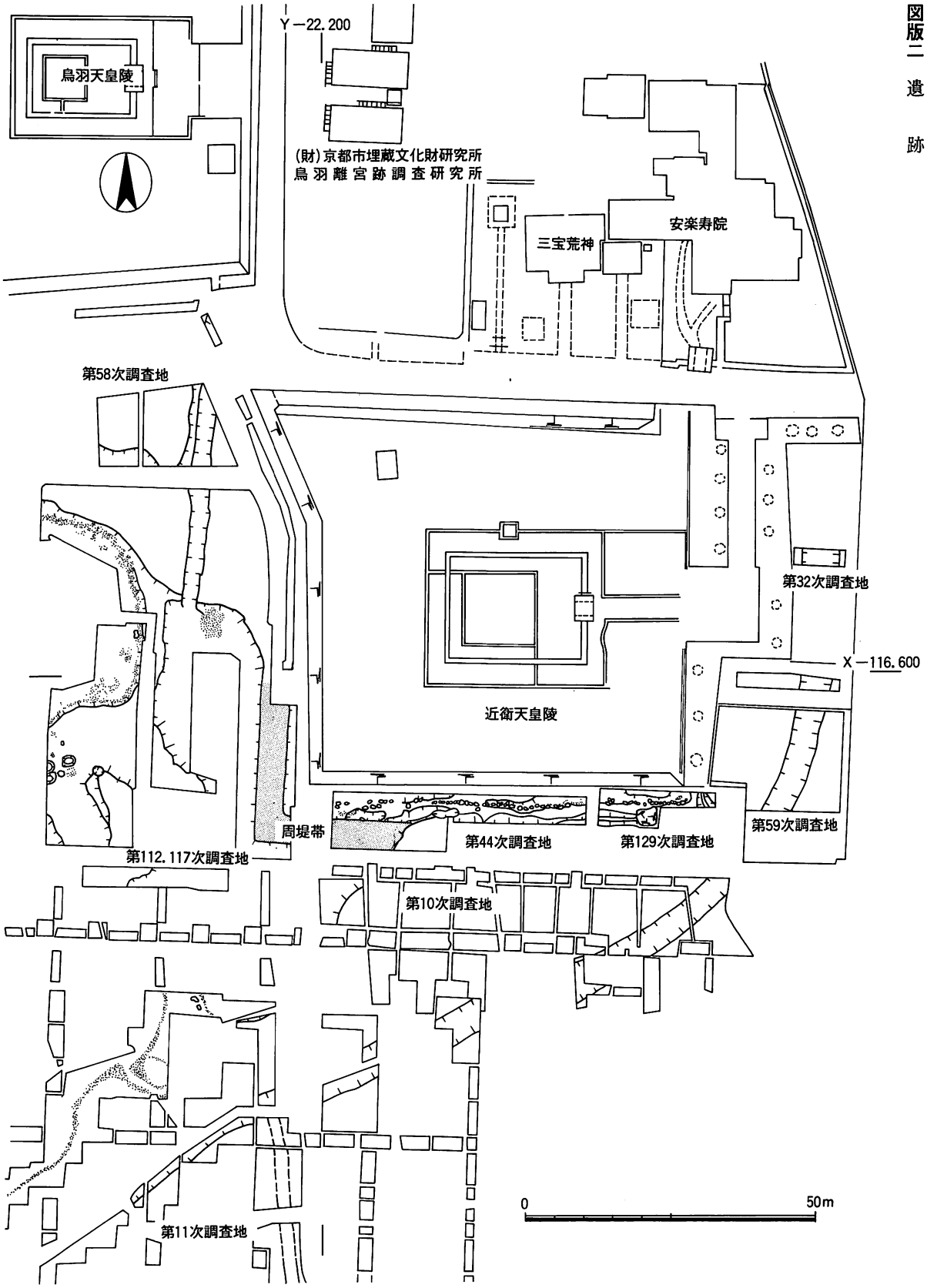
| 番号 | 和名 | 科名 | 出土部位 | 出土地点 A 平末 | B 平末 | C 平末 | D 鎌倉 | 学名 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **木本** | | | | | | | | |
| 1 | マツ | マツ | 葉 | 破片 | — | — | — | Pinus sp. |
| 2 | ヒノキ | ヒノキ | 毬果 | — | — | — | 枝 | Chamaecyparis obtusa Endl. |
| 3 | ハンノキ | カバノキ | 果実・毬果 | — | — | 4 | 5 | Alnus japonica(Thunb.) Steud. |
| 4 | アカガシ亜属 | ブナ | 総包 | 4 | — | — | 破片 | Quercus sp. (Cyclobalanopsis) |
| 5 | エノキ | ニレ | 核 | — | — | — | 3 | Celtis sinensis Persoon |
| 6 | サクラ亜属 | バラ | 核 | — | — | — | 1 | Prunus sp. (Subgen. Cerasus) |
| 7 | イヌザンショウ | ミカン | 種子 | — | — | — | 破片 | Fagara mantchurica Honda |
| 8 | センダン | センダン | 核 | — | — | — | 3 | Melia Azedarach L.var. subtripinnata Miquel |
| 9 | アカメガシワ | トウダイグサ | 種子 | 6 | — | — | 1 | Mallotus japonicus Muell.Arg. |
| 10 | ツバキ | ツバキ | 種子 | — | — | — | 2 | Camellia japonica L. |
| 11 | ブドウ属 | ブドウ | 種子 | — | — | — | 破片 | Vitis sp. |
| 12 | エゴノキ | エゴノキ | 核 | 3 | — | — | — | Stylax japonica Sieb. et Zucc. |
| 13 | タラノキ | ウコギ | 核 | 1 | — | — | — | Aralia elata(Miq.) Seemann |
| 14 | マダケ属 | イネ | 稈 | — | — | 破片 | — | Phyllostachys sp.? |
| **草本** | | | | | | | | |
| 1 | タデ属 | タデ | 果実 | 破片 | — | — | 12 | Polygonum sp. |
| 2 | ソバ | タデ | 果実 | — | — | — | 1 | Fagopyrum esculentum Moench |
| 3 | アカザ属 | アカザ | 種子 | — | — | 4 | — | Chenopodium sp. |
| 4 | ミドリハコベ | ナデシコ | 種子 | — | — | 3 | — | Stellaria neglecta Weihe |
| 5 | タガラシ | キンポウゲ | 果実 | — | — | 4 | 33 | Ranunculus sceleratus L. |
| 6 | キンポウゲ属 | キンポウゲ | 果実 | — | — | 2 | 14 | Ranunculus sp. |
| 7 | アブラナ科 | アブラナ | 種子 | — | — | — | 3 | Cruciferae |
| 8 | マメ | マメ | 種子 | — | — | — | 4 | Leguminosae |
| 9 | カタバミ | カタバミ | 種子 | — | — | 2 | — | Oxalis corniculata L. |
| 10 | エノキグサ | トウダイグサ | 果実 | — | — | 2 | 1 | Acalypha australis L. |
| 11 | チドメグサ属 | セリ | 果実 | — | — | 1 | 5 | Hydrocotyle sp. |
| 12 | シソ | シソ | 果実 | — | — | — | 3 | Perilla frutescens Britton var.acuta K. |
| 13 | ナス | ナス | 種子 | — | — | — | 4 | Solanum melongena L. |
| 14 | オオバコ | オオバコ | 種子 | — | — | — | 1 | Plantago asiatica L. |
| 15 | スズメウリ | ウリ | 種子 | — | — | — | 2 | Melothria japonica Maxim. |
| 16 | ウリ | ウリ | 種子 | — | — | 2 | 8 | Cucumis melo L. |
| 17 | オモダカ | オモダカ | 果実 | — | — | 2 | 1 | Sagittaria trifolia L. |
| 18 | イネ | イネ | 穎・果実 | — | 1 | 2 | 1 | Oryza sativa L. |
| 19 | アワ | イネ | 穎 | — | — | — | 1 | Setaria italica Beauv. |
| 20 | イネ科 | イネ | 穎 | — | — | — | 6 | Graminae |
| 21 | カヤツリグサ属 | カヤツリグサ | 果実 | — | — | 10 | 31 | Cyperus sp. |
| 22 | イボクサ | ツユクサ | 種子 | — | — | 3 | 2 | Aneilema Keisaku Hassk. |
| 23 | コナギ | ミズアオイ | 種子 | — | — | 5 | 16 | Monochoria vaginalis Presl |

注　出土地点の座標　A（X—116, 621 / Y—22, 145.5）　B（X—116, 621 / Y—22, 114）　C（北壁 / Y—22, 142）　D（X—116, 623 / Y—22, 136）

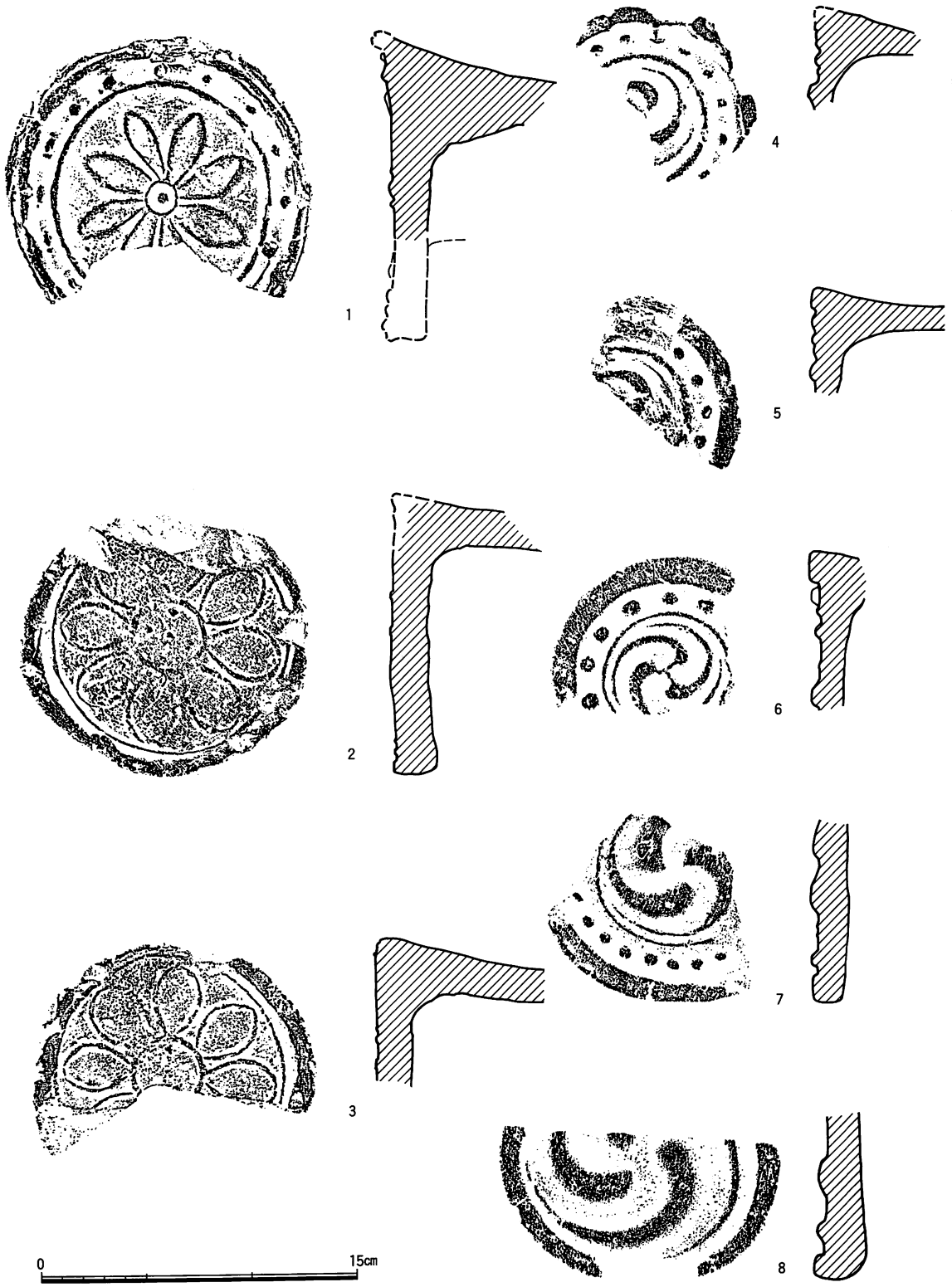
# 図　　版


Y－23.100
X－116.600
第128次調査地
第１調査区
第128次調査地第２調査区
第81次調査地
第82次調査地
第95次調査地
第108次調査地
第118次調査地
第131次調査地
第115次調査地
0
10m

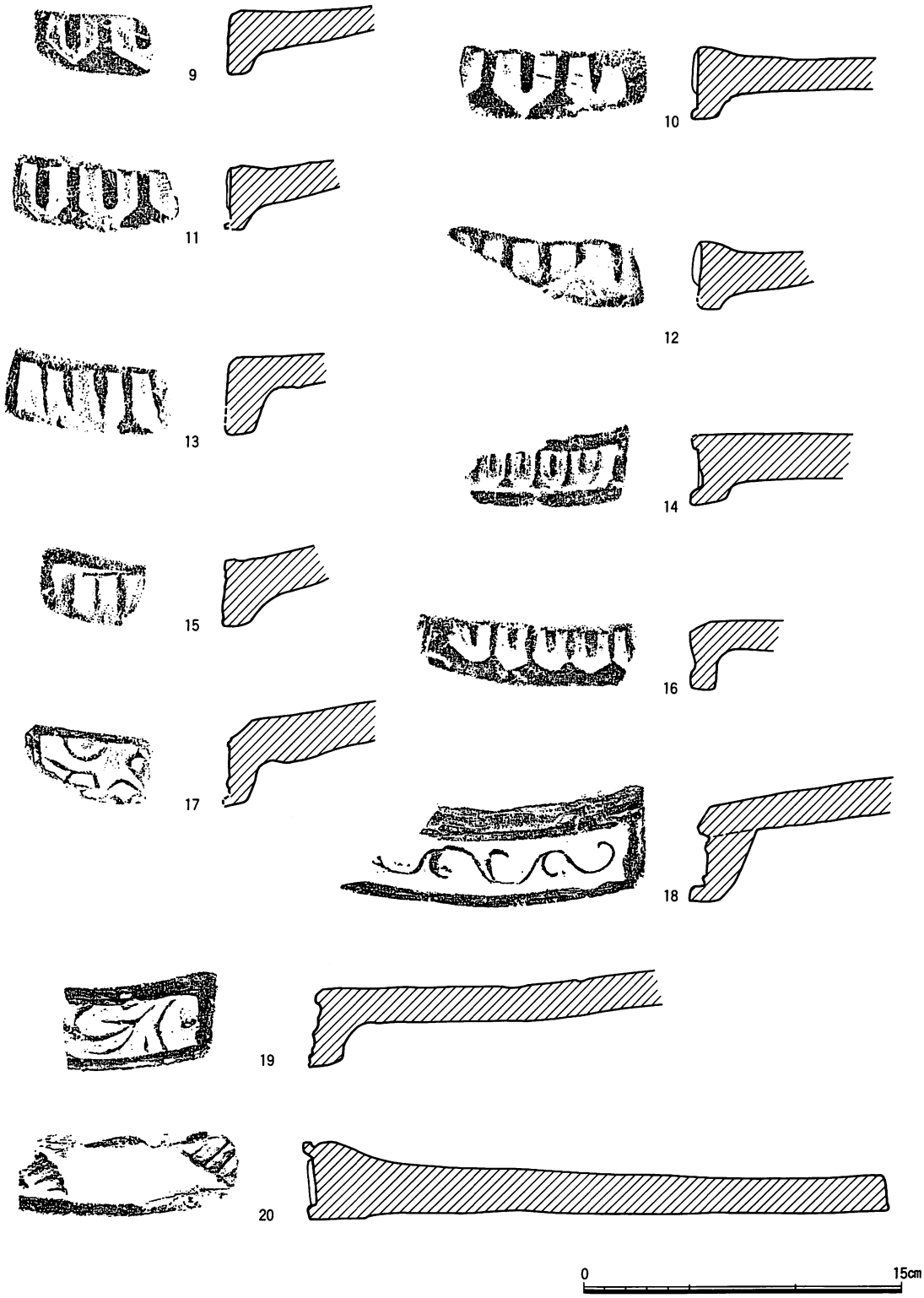
北殿地区調査位置図


Y－22.200
鳥羽天皇陵
(財)京都市埋蔵文化財研究所
鳥羽離宮跡調査研究所
三宝荒神
安楽寿院
第58次調査地
第32次調査地
X－116.600
近衛天皇陵
周堤帯
第44次調査地
第129次調査地
第59次調査地
第112.117次調査地
第10次調査地
第11次調査地
0
50m

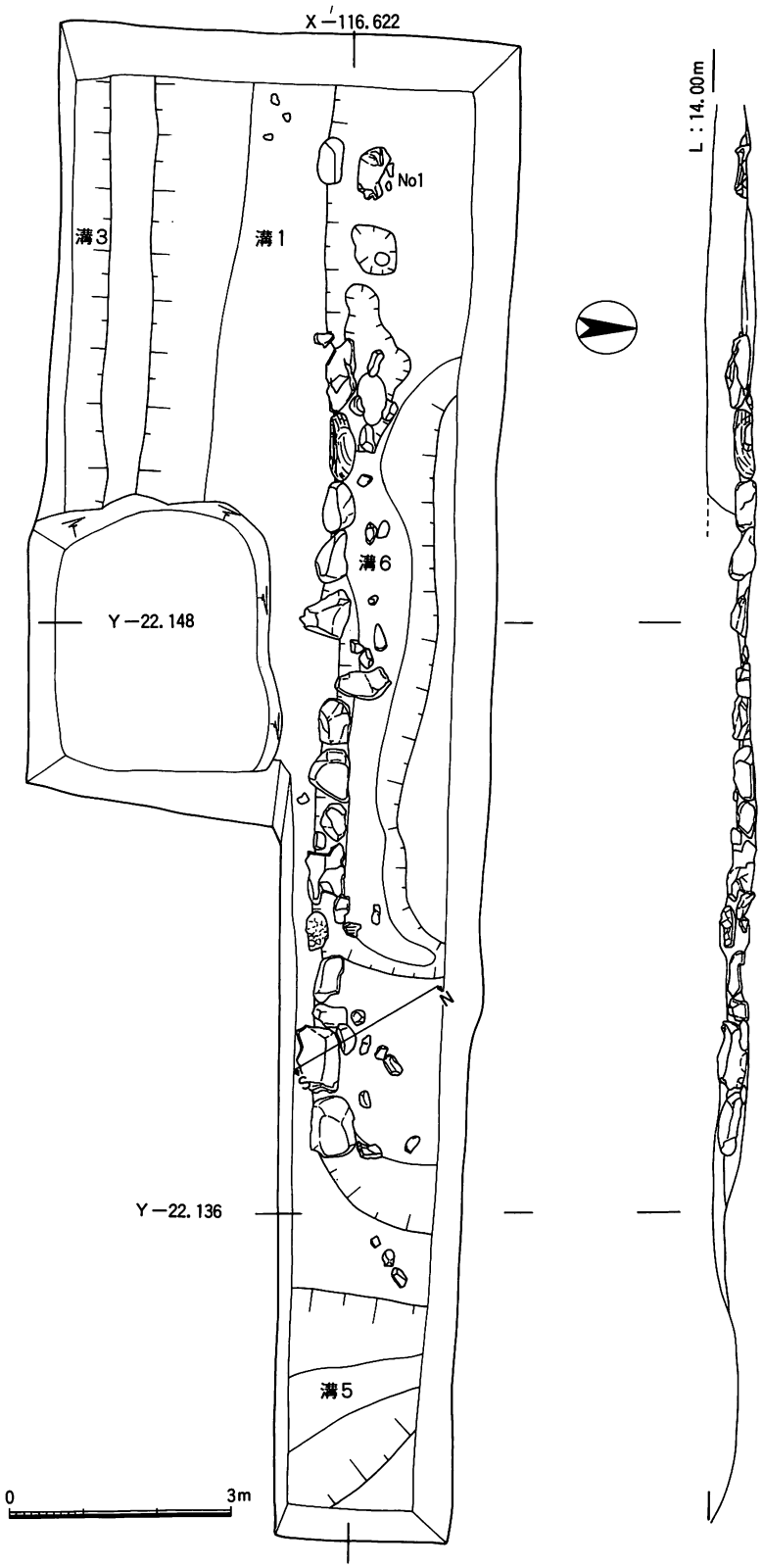
東殿地区調査位置図



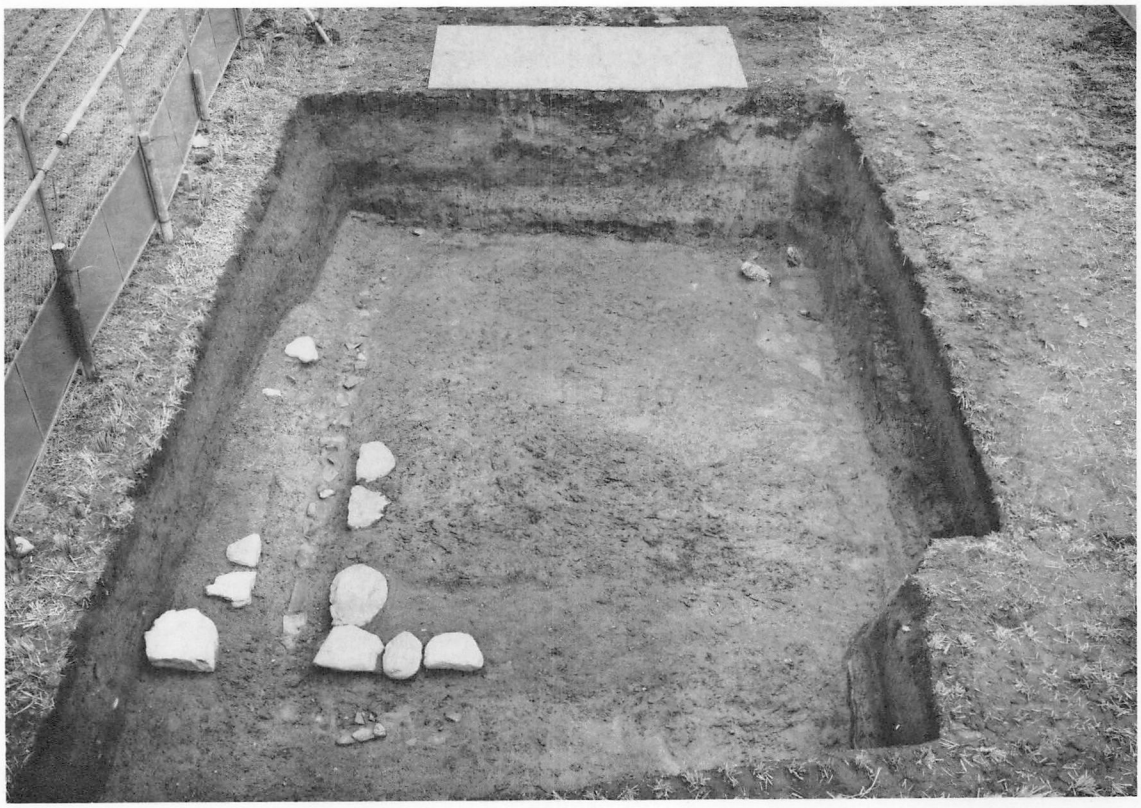

軒丸瓦拓影・実測図



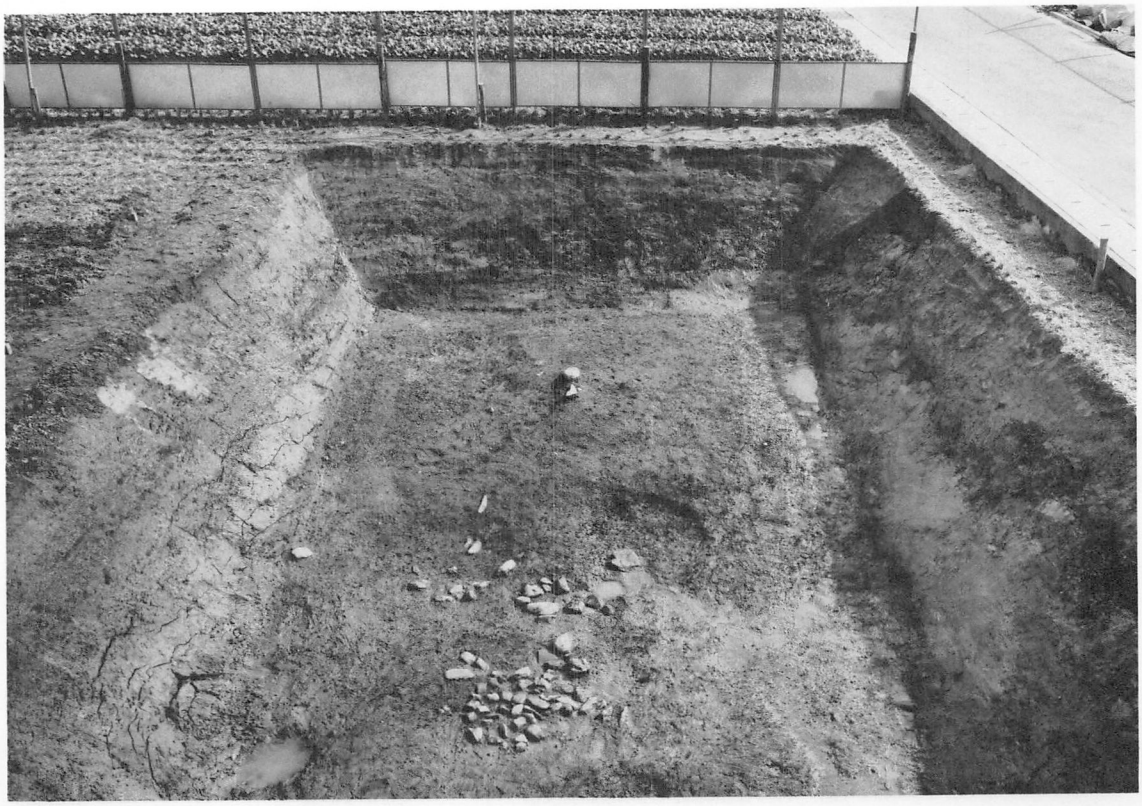

軒平瓦拓影・実測図




遺構実測図



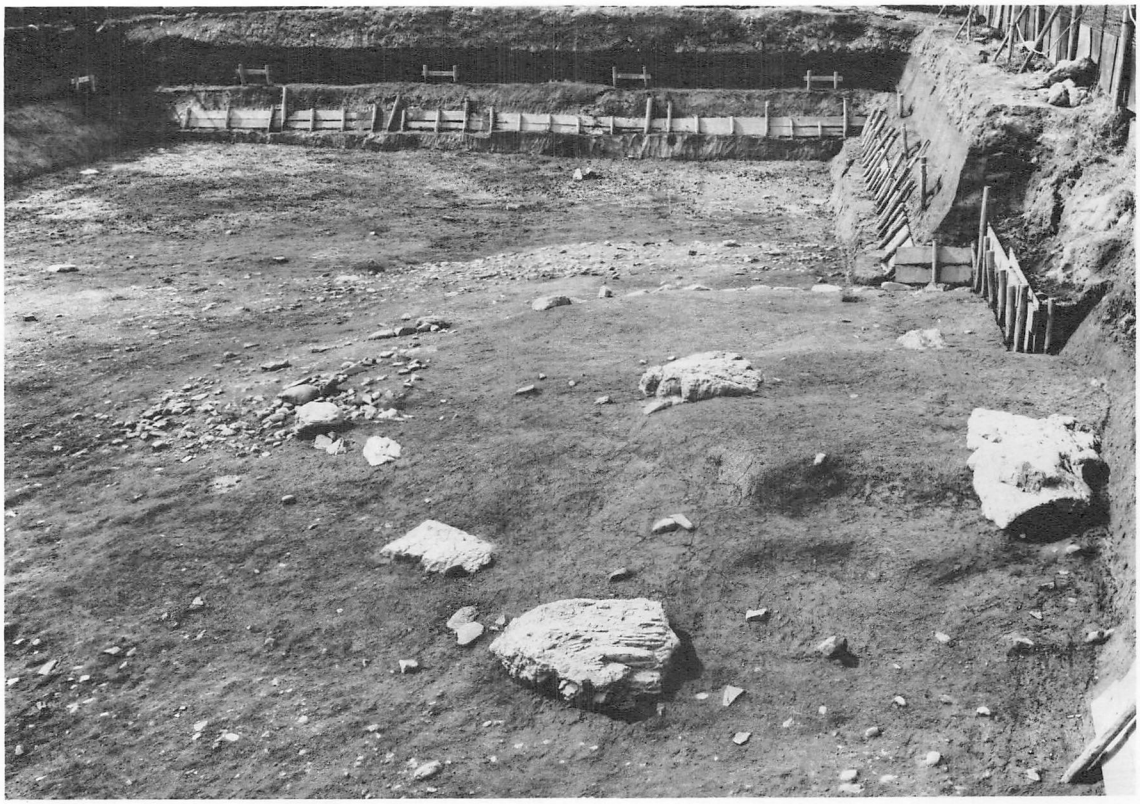
1　第１調査区全景（北から）



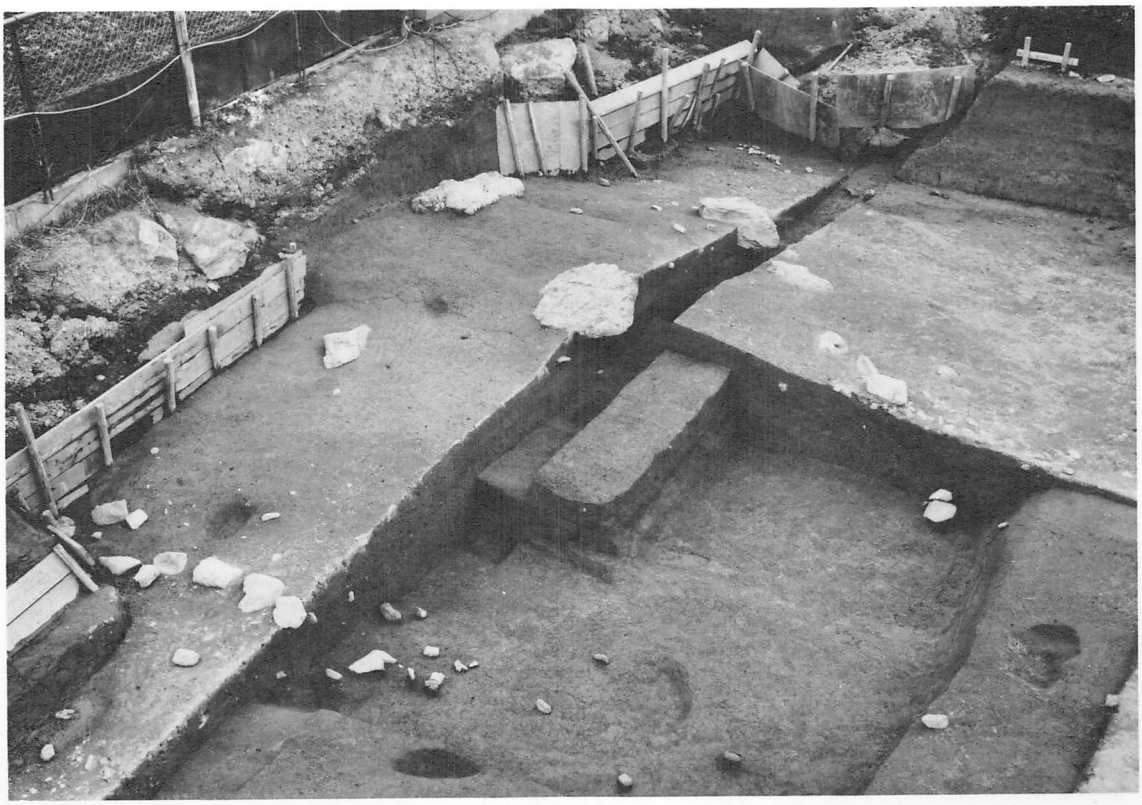
2　第２調査区全景（西から）

1　第２調査区　島断ち割り断面（西南から）

2　第95次調査　島の地業状況（西南から）



1　第95次調査　島南側の全景（東から）



2　第95次調査　島の地業状況（西南から）

軒丸瓦

10

13

16

14

17

18

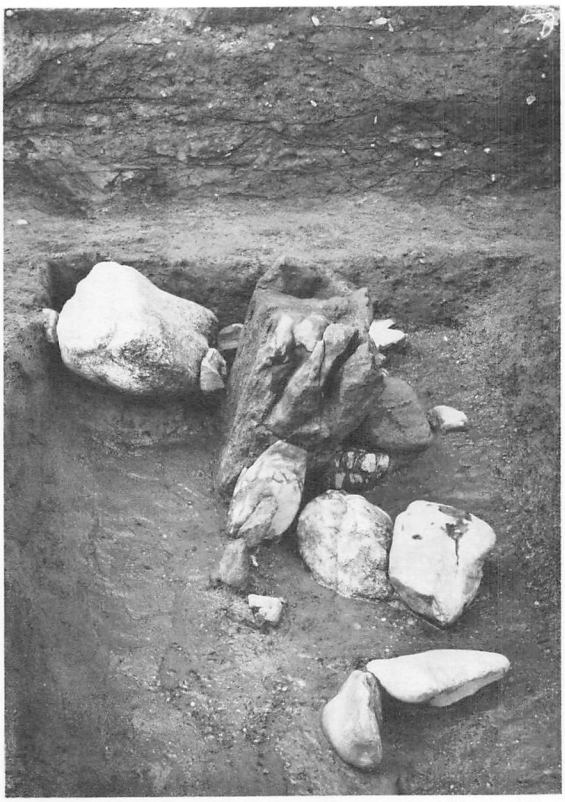
19

20

軒平瓦

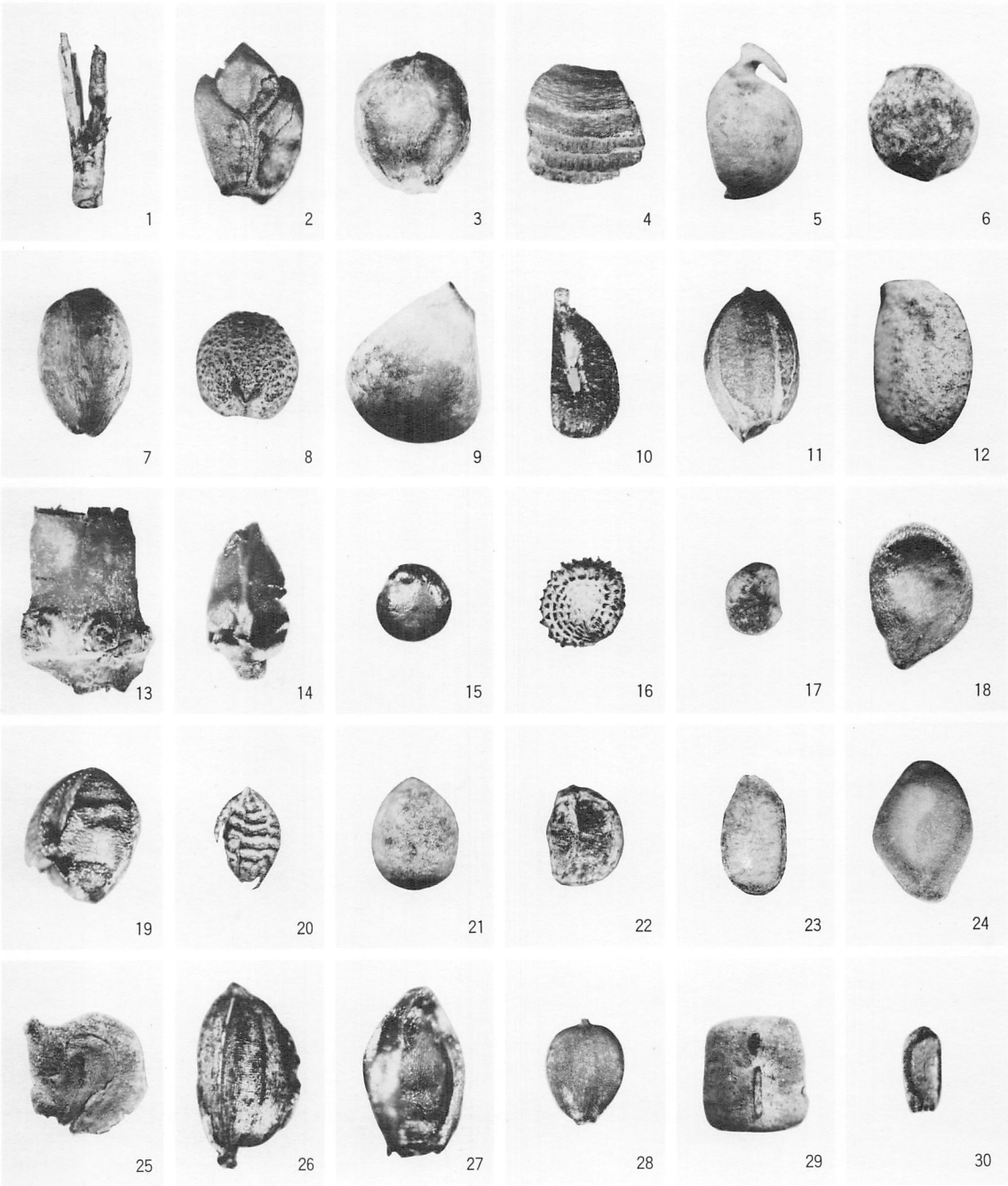
調査区全景（東から）

1　溝6　石列（東から）



2　溝6　据え付け状況（東から）

3　溝6　据え付け状況（東から）




1. マツ(×3.6)　2. ヒノキ(×6.0)　3. ハンノキ(×4.8)　4. アカガシ亜属(×3.0)　5. エノキ(×5.2)
6. サクラ亜属(×3.3)　7. センダン(×2.0)　8. アカメガシワ(×4.5)　9. ツバキ(×1.6)　10. ブドウ属(×5.2)　11. エゴノキ(×2.0)　12. タラノキ(×12.0)　13. マダケ属(×2.0)　14. タデ属(×6.0)
15. アカザのヒエ属(×9.6)　16. ハコベ(×9.6)　17. タガラシ(×9.6)　18. キンポウゲ属(×7.2)
19. アブラナ科(×9.6)　20. カタバミ(×9.6)　21. エノキグサ(×9.6)　22. チドメグサ属(×12.0)
23. オオバコ(×12.0)　24. スズメウリ(×3.7)　25. オモダカ(×12.0)　26. イネ(×3.7)
27. イネ科(×12.0)　28. カヤツリグサ属(×12.0)　29. イボクサ(×7.5)　30. コナギ(×12.0)

# 鳥羽離宮跡発掘調査概報

昭和63年度

発行日　平成元年３月31日

発　行　京都市文化観光局

住　所　京都市左京区岡崎最勝寺町13京都会館内

編　集　財団法人　京都市埋蔵文化財研究所

住　所　京都市上京区今出川通大宮東入ル元伊佐町265-1
　　ＴＥＬ　(075)　４１５－０５２１

印　刷　㈲　真　陽　社